

還暦・古希・喜寿そして

傘寿談議

徳島剣山世界農業遺産支援協議会 会長

永井 英彰

迫力ある出雲の「八岐大蛇」

淡路島・伊弉諾神宮で神楽祭

九月二十二日、淡路島・伊弉諾神宮で神楽祭があり、徳島から神楽に關心のある四人が出掛けた。生憎の小雨模様だったが、全員にビニールの雨合羽が配られ、千人収容の会場に六百人もが詰めかけた。入場料は前売り券6000円、4500円、2000円で、いずれも立派な弁当が付いている。当日券は弁当なし。主催は「くにうみ神話のまちづくり」実行委員会。地元「国生み太鼓」に続き古代民俗研究所の大森亮尚代表が「古事記や日本書紀にある神代の伝承を『神話』と呼ぶようになったのは明治時代以降



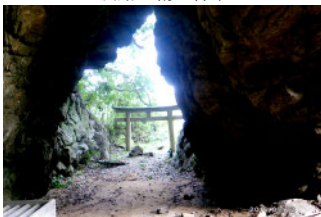
にぎわうイザナギ神宮



煙をはく八岐大蛇



淡路の創生神楽



半分埋まった鳥居(廃跡岩戸神社)



古代イスラエルの井戸か



春日の不耕起実験田

の事。全国に神代からの古伝承や逸話はたくさんあるが、淡路島の「国生み神話」「高千穂への天孫降臨を伝える『日向神話』、国譲りなどの『出雲神話』はその中核に当たる三大神話といえる」と解説した。火を噴く大蛇

「大和のまほろば」では語りと二十五絃箏で国生み神話に新たな息を吹き込む。続く「出雲神楽」は出雲大社の神楽。祭神の大国主命は素戔嗚尊の子。高天原を追われた天照大神の弟、素戔嗚尊は出雲の国斐の川上にたどり着く。そこで泣いている翁「足

名槌」とと媼「手名槌」それに末娘の櫛名田比売に出会う。話を聞くと、元々八人いた娘が毎年一人ずつ八岐大蛇に食べられてしまい、今は櫛名田比売一人だけとなり、今年もその時期がやってきたという。八岐大蛇とは、目がホウズキのように赤く、つの体に頭が八つ、胴体は苔むし樹木が生え、八つの谷川を這い回るといふ。素戔嗚尊は櫛名田比売を妻に貰う約束で大蛇退治を約束し、周到な計画の元に見事に退治しめでたく結ばれるという神楽である。この話を阿波説は吉野川などの水系が毎年氾濫していたのを

く判らない。昔は奥へ奥へと通じていたらしいが、今は埋もれている。次いで洲本市古茂江海岸、ホテルニューアワジ別邸(元四州園)にある古代イスラエルの井戸と言われている井戸を見学した。周囲が整備されているため、格別の場所には見えなかったが、淡路島には古代イスラエル遺跡が20ヶ所以上あるという。

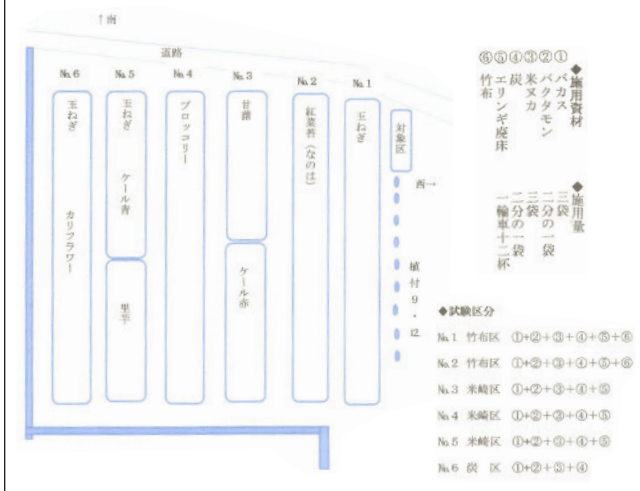
徳島からの同行者の知人、漆格さんの案内で、淡路市安乎の国道28号線沿いにある廃跡岩戸神社を訪れた。半分埋まった鳥居の奥に大きな岩洞があり、朽ちかけた祭壇がある。別の岩間から日光が差し込み神秘的というか異様というか、表現しがたい空気が漂っている。中央に立つて手を広げるとユダヤの紋章に見えるというが、筆者には良

ユダヤ人の遺跡か

菜の花の生育順調

不耕起・表層施肥栽培試験

自：平成28年9月1日



実験田の配置図



紅葉菜(なのはな)の成育は順調



四国大生が作った着ぐるみ(左)

という。土壌そのものの分析ではPHとリン酸が高く苦土と加里が低いとあった。専門家に見せたら「要するにやせ地だ」と言われた。土が固くなっている中で、中に枯れ草などを敷き込みふわふわ状態にする必要があるという。

ビニールハウスの跡地には発酵酵素のバクタモンを撒き、枯れ草を敷いてその上にカヤや土手で刈った草などを置き、マルチとした。北島の河川敷で刈った良質のカヤを入手でき、軽トラで二往復分春日へ運んだ。

アニメの祭典「マチ★アソビ vol.17」と国際アニメ映画祭のメイン期間(10・8〜10)は好天に恵まれ県内外から大勢の若者が集まった。この催事は徳島市出身でアニメ制作会社「ufo table」の近藤光社長が「アニメで徳島ににぎわいを」と企画し、平成二十一年秋に初開催。初回の来場者は約二万二千人だったが、今回は九月二十二日から期間中の来住者が約八万二千人に増え徳島の一大イベントとなった。

徳島駅前ポツポツ街商店街でも終日催しがあり、四国大学もブースを開いていた。ここでは生活科学科デザインコースと書道文学科の作品を展示。生活科学科学生が発泡スチ

は生活科学科デザインコースと書道文学科の作品を展示。生活科学科学生が発泡スチ

女性性の目覚め鼎談

ロールやボア、ウレタンを素材に制作したパンダの着ぐるみに着用して、通行人に愛嬌を振りまいていた。着ぐるみの中に扇風機が無く暑いので、長時間着ることは無理との事だった。

あいずみ文芸11号発刊

藍住町文芸協会(安曇統太会長)はこのほど「あいずみ文芸第11号」を発刊した。毎年秋に発刊しており、筆者は二年目から参加しているので、十作品を掲載してもらった事になる。昨年号で(株)地域サービス(株)の25期決算洗い浚いで判った事」載せ、最新号では「遂に会社の後継者誕生」の詳細を発表した。懸案が解決したので、ストレスが減り頗る体調も良い。十月二十二日には藍住町、みちよ亭で祝賀会が開かれ、書家の東南光さんらとも再会できた。



あいずみ文芸の第11号



1〜195
 2年)で、徳島富田浦町西富田(現徳島市弓町辺り)の出身と教わった。

香川宣子さんらの鼎談
 徳島市弓町辺り)の出身と教わった。

月刊誌「ザ・フナイ」九月号で小説家の香川宣子さん、王季志ずかさ(いずれも徳島県出身)が、(株)船井本社社長・フナイ主幹船井勝仁さんと「女性性の目覚め」について鼎談をしている。賀川さんは「アヴェ・マリアのヴァイオリン」、王季さんは「臆病な僕でも勇者になれた七つの教え」という小説で、ベストセラー作家となった。数々のテレビドラマのシナリオを執筆している王季さんが阿南市出身とは今回初めて知った。

賀川医師はアヴェ・マリアについて、娘に買ったヴァイオリンの穴の中を覗いていた。「1924年ドイツ製」と書かれていた。そしたら夜毎に天から映像が降ってきたので、三ヶ月間眠らずに書き留めたものだという。

王季さんも「臆病な僕」について脚本家だから構成は大事にするが、それでも「何か」が降りてきて勝手に筆が進むような、書かされている感覚が強烈だったという。

賀川医師のニックネームが「火の玉」王季さんのそれは「鉄の玉」など、生い立ちや阿波古代史が次々に登場して興味を尽きない。

童謡・愛唱歌歌う講座

四国大学にはたくさんさんの公開講座がある。筆者は長年、「万葉集の世界」と「枕草子の世界」でお世話になっているが、(株)地域サービスに後継者ができ筆者に時間ができたので、新たに「童謡・愛唱歌を歌う講座」へ参加した。十人足らずの生徒に声楽の上野美貴講師、ピアノ伴奏に竹内郁子講師が付くという豪華さ。「卵を縦にして飲み込むように口を開けて」と指導されるが、他の皆さんのように高音が出ない。今月末に修了コンサートがあるというのにどうしたものか。唱歌「村祭」を習った時、作曲は南能衛(1888